

関東で初雪、広域積雪調査を実施

気象災害軽減イノベーションセンター

11月に初雪

11月24日、東日本上空に真冬並みの強い寒気が流れ込み、関東の各地で初雪が観測されました(写真1参照)。東京都心では、11月の降雪は1962年以来54年ぶり、また11月中の積雪は1875年の統計開始以来観測史上初となりました。

しかし、雪の少ない関東では雪を測定するセンサーは多くありません。そこで気象災害軽減イノベーションセンターでは、面的な積雪状況を把握するため、24日に関東での積雪調査を実施しました。



写真1 防災科研つくば本所の積雪の様子(2016年11月24日)

調査方法

センターのメンバーは3班、①山梨班(中央本線：上野原駅→甲府駅)、②東西班(つくばエクスプレスおよび中央線：万博記念公園駅→高尾駅)、③南北班(高崎線：南浦和駅→高崎駅)に分かれ、約20km間隔毎の駅で途中下車し、各地の積雪状況を調査しました(表紙写真参照)。また、関東近辺の関係者にメールで積雪状況の確認を呼びかけたところ、多くの報告を頂くことができました。

調査結果速報

調査の結果、首都圏42地点の積雪深を収集しました。収集した積雪深データと、アメダスの積雪深データ(首都圏18地点)とをあわせてGISによる内挿処理を行い、積雪分布図を作成しています。図1は東京都西部の積雪分布図です。色の薄い都心部は積雪がなく、西に向かうにつれて積雪深が増加しており、八王子市西部の高尾駅周辺がせり出しているのがわかります。

このような積雪分布の解析処理は、観測点を増やすことで精度を高めることができ、より現実に近い積雪分布状況を示すことができます。

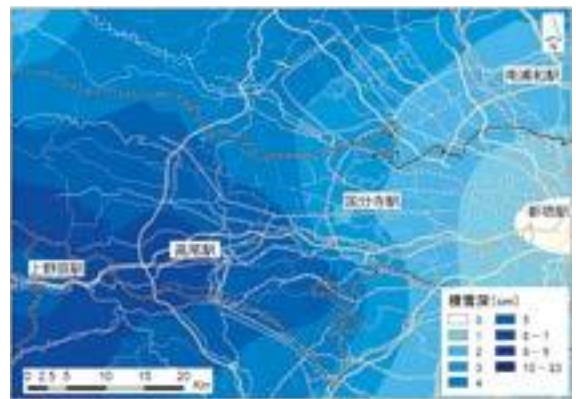


図1 GISによる積雪分布の処理結果速報(東京都西部)

今後について

今後は、気温や風向、標高といった他の情報と積雪分布の関係性や、積雪による交通障害といった社会インフラへの影響などを分析し、首都圏における降雪の被害を軽減する情報を作り出したいと考えています。